

第23回全国消防操法大会に出場

第23回全国消防操法大会が10月7日、東京都江東区「東京臨海広域防災公園」で開催され、ポンプ車の部に兵庫県代表として、市消防団の神代第1分団が出場しました。

大会では、市からの応援団や東京淡路会の会員などからの応援を受け、団員たちはこれまでの練習の成果を大いに発揮。初出場ながら的確な行動に力強い操法を披露し、その姿は今後の消防団活動を大いに期待させるものでした。



▲全国の舞台で操法を披露する神代第1分団の団員たち

たむらけんじさん淡路島観光GM就任

淡路島好きで知られるタレントのたむらけんじさんが10月11日、淡路島3市と淡路島観光協会から「淡路島観光GM」に任命され就任を行いました。



▲淡路島GM任命書を受け取ったタレントのたむらけんじさん

島観光GM（ゼネラルマネージャー）に任命され就任を行いました。

会見でたむらけんじさんは「淡路島は良い所だが観光客が意外と少ない。真剣にアイデアを考えていきたい」とあいさつ。また「①明石海峡大橋の高速料金の値下げ交渉②島外からのスポーツ合宿誘致③スポーツ大会誘致④映画・ドラマのロケ地誘致」に取り組みたいと意欲を燃やしていました。

人形まつりを開催中です 淡路人形座

秋の人形まつりを淡路人形座移転後初めて福良港で行っています。今回の特別公演は平清盛にちなみ「二谷嫩軍記 須磨浦組討の段」や「奥州秀衡有鬘婿 鞍馬山の段」、美福門院がモデルと言われる「玉藻前囃扶 神泉苑の段」などの上演を予定しています。

特別公演1

▼内容 ①玉藻前囃扶 神泉苑の段 ②奥州秀衡有鬘婿 鞍馬山の段

▼日時 11月1日（木）
①午後3時〜②午後4時〜



▲「玉藻前囃扶 神泉苑の段」の一場面

特別公演2

▼内容 一谷嫩軍記 須磨浦の段

▼日時 ①11月10日（土）、15日（木）、24日（土）
②11月11日（日）、25日（日）

※特別公演2の上演日のそのほか、11月10日（土）、15日（木）、24日（土）の3日、11月11日（日）、25日（日）の2日、淡路人形座にて上演いたします。

他の上演時間には「壺坂観音霊験記 山の段」を予定
▼バックステージツアー
▼内容 公演鑑賞者を対象に普段見られない舞台裏を座員の解説を交えて見学
▼日時 11月4日（日）、10日（土）、11日（日）、17日（土）、18日（日）、25日（日）
午前11時の公演終了後
▼定員 20人
▼家族への感謝を人形芝居で!!
▼内容 ①親子1グループ（2人以上で1人無料）②夫婦2人で1人無料
▼日程 ①11月08日（木）「いい親の日」②11月22日（木）「いい夫婦の日」
▼淡路人形座×うずしおの郷カラオケ大会本選
▼内容 ①カラオケ大会本選（特別審査員：伍代夏子氏）
②灘黒岩水仙郷PRコーナー
③戎舞④地元有志によるステージイベント
▼日時 11月23日（金）
午前10時〜午後1時
▼場所 淡路人形座周辺特設ステージ
淡路人形座 ☎52・0260

サンライズマックジムがオープンしました

サンライズ淡路において10月7日、元メジャーリーガーのマック鈴木さんが監修するサンライズマックジムがオープンし、それを記念した交流イベントが行われました。交流イベントでは、島内の野球チームに所属する中学3年生7人が、マックさんからバランスボールやダンベルを使ったトレーニングの講習を受けました。

運動不足解消のための簡単なトレーニングを行う器具も用意されており、女性や高齢者でも安心して使うことができます。また不定期にマックさんが訪れ、20年以上のプロ野球選手としての活動や他のスポーツ選手との交流で得た経験に基づいたトレーニング講習を行います。



▲中学生たちと話すマックさん

暴力追放運動で功労者に表彰

受賞者一覧（敬称略）

◆全国少年警察ボランティア協会少年補導荣誉章表彰 池弘士（津井）◆全国防犯協会連合会防犯荣誉章表彰 森丞（福良）◆近畿防犯協会連絡協議会表彰 寺岡博（福良）◆全国防犯協会連合会防犯荣誉章表彰 飯田寛治（松帆）◆兵庫県防犯協会連合会表彰 小梶照美（松帆）、古池武郎（福良）◆南あわじ防犯協会表彰 東敬輔（神代）、橋本正（松帆）、曾根輝宏（湊）、松並弘子（福良）、阿那賀地区防犯グループ、南あ



▲暴力追放運動・安全安心まちづくり市民大会表彰式（10月13日、西淡公民館）

ふるさと納税

ご寄附ありがとうございます。

ふるさと南あわじ応援寄附金 (10月16日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	413件	57,574,719円
市外(島内)	56件	9,341,000円
市外(島外)	253件	29,954,940円
合計	722件	96,870,659円

詳細は市のホームページに掲載しています

ふれあい市長室

みんなで守り・育てる地域公共交通をめざし

南あわじ市長 中田勝久

現在、市内を巡回するコミュニティバス「らんらんバス」を運行しておりますが、昨年度約7万人の方々にご利用いただきました。しかし、いろいろな方々からご意見やご心配をいただいております。コミュニティバスに着手した経緯は、高度成長期を経て、自家用車を利用する方が急増し、路線バスの利用者が激減しました。民間運行事業者の経営は悪化し、事業者へ行政が多額の補助金を出し続けておりましたが、路線廃止に至るようになりました。その後、学生さんや高齢者などの交通弱者を何とか支援するためにコミュニティバスを市が独自で事業化いたしました。県下でも特に充実した内容であると国・県の担当部局から評価をいただいております。

事業化の目的は、単に現在の交通弱者を救うためだけでなく、今後急速に進む高齢化を見据えて実施したものであり、また、事業化するためには短期間ではできず、許認可に係る期間や、コスト、便数、財政的負担などを実証しながらより良い対策を探る必要性があります。

現在、南あわじ市の75歳以上の人口は16%を超え、65歳以上は28%台、60歳以上になりますと37%余りを占めています。一方15歳以下を見ますと約17%と非常に少なくなっており、約55%の生産年齢人口（15歳から64歳）の方々が年少者及び高齢者を支えている人口構成となっております。

仕事を待つ家族の方が常に交通弱者の方を送迎することは困難な状況になってまいりました。併せて、高齢者の交通事故が増加傾向にあり、ご家族の方が運転免許証の返上を高齢者の方に求めていることが多くなっています。

高齢化が進むにつれ、交通弱者がより一層増加してまいります。高齢者の方や障がいがある方々の移動手段を確保することが行政としての最も重要な役割の一つです。しかしながら、この移動手段の確保を含め、地域公共交通を安定した持続可能なものとしていくためには、行政だけではなく、地域住民、事業者等が、それぞれの役割により協働で「みんなで守り・育

てる地域公共交通」の「マイバス意識」の考えのもと、身近な生活のための移動手段となるよう取り組んでいく必要があります。

らんらんバスが総合的にスタートして5年が過ぎようとしています。今年度において、地域公共交通検討委員会の皆様には様々な議論をいただき、「南あわじ市生活交通ネットワーク計画」に関する答申をいただきました。その答申を踏まえ、平成25年4月から新しい試みに挑戦します。財政的には、国・県より約8割の支援があり市は2割の負担で済みます。

今後とも引き続き最善の方法を見い出してまいりたいと考えておりますので、市民の皆様におかれましては、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

